

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名 佐賀県立伊万里実業高等学校

1 前年度 評価結果の概要
 ・2年以上にわたる「コロナ禍」が続き、令和3年度においても学校行事や生徒の学校生活に大きな影響が出た。しかし、時間の経過とともに「With コロナ」の観点で計画を立て、実行していく体制づくりや意識改善が進み、主要な学校活動は実施することができた。
 ・旧高校双方の閉校式が終了し、名実ともに「伊万里実業」という新高校としての歴史を創造すべき年度となった。「校舎制」をとる学校として、従来からある問題点を一つずつ解決していくことでさらなる教育活動の深化・充実を図るとともに、「至誠礼節」の校訓の下、「新高校」として地域社会や上級学校からの「信用信頼」を得られる学校としての飛躍を目指すための「基礎固め」と「情報発信」に努める。

2 学校教育目標
 心身ともに健康で逞しく、「至誠」と「礼節」を重んじ、専門的知識・技術を生かし社会に貢献し愛される人材を育成する。

3 本年度の重点目標
 (1)心身ともに健康な生徒と安全安心な学校づくりを目指す。
 (2)学習意欲を高め、確かな学力修得と進路実現を図る。
 (3)「Society5.0」や「6次産業化」などの次世代を見据え、地域に貢献できる人材の育成を図る。

4 重点取組内容・成果指標 **5 最終評価**

| (1)共通評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|-----------|--|---|---|---------|--|---------|---|
| 評価項目 | 重点取組 | | 具体的取組 | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| | 取組内容 | 成果指標(数値目標) | | | | | |
| ●学力の向上 | ○年間計画に基づき基礎学力の向上を目指す。 | ○国語・英語テスト及び就職ドリルの各クラスの平均点が「15～18点(20点満点)以上」を目指す。 ○進路マップのGTZにおいて、レベルDの生徒を「上のレベル」になるように取り組む。 | ・事前にトレーニングの時間を設け、各教科でも授業時間に取り扱うなど実施前の学習にも力を入れる。 ・小テストの年間成績優秀者は年度末に学校長から表彰を行う。 ・昨年度の成績を踏まえ、事前テキストを各教科の授業で取り扱い、理解の進んでいない生徒の実態把握と学力定着を目指す。 ・学期毎に生徒の学力状況把握と今後の指導改善に向けた話し合いの場を設定し、教科指導の工夫を行う。 | B | ・国語・数学・英語の小テスト及び就職ドリルについては、学校全体の状況として、大半のクラスで設定目標値を上回ったが、一部のクラスで設定値に届かないクラスもあった。 ・年間成績優秀者(年間満点)の割合は、全体で「12.5%(のべ数)」となった。 ・進路マップ(1・2年生)については、試験結果が未着であるため評価はできなかったが、事前テキストを各教科の授業や冬季休業中の課題等で取り扱い、基礎学力の向上に向けて計画的に指導を行った。 | B | ・正規の授業以外でも生徒の基礎学力向上に努めていただいていることは評価できます。今後も継続をお願いします。 ・進学希望の生徒に対する進路意識の啓発や学力向上のための方策も含め、今後も様々な取り組みを展開されることを望みます。 |
| | ○読書活動の推進 | ○生徒図書委員会を年間「3回」実施する。 ○生徒一人あたりの年間貸出数「4冊」を目指す。 | ・朝の読書の実施。 ・図書委員会の毎学期1回の実施。 ・本のリクエストボックスの設置と運用の実施。 | A | ・朝読書や毎学期に1度の図書委員会は開催できた。また、今年度は、これまで開催できていなかった芸術鑑賞会や地区読書会などの大きな行事を開催できたことが大きい。関連して芸術鑑賞会では、落語を行い約90%の生徒が大変満足できたに回答していた。 | A | ・図書館の改革に取り組まれていることは評価できますが、生徒主体の啓発活動が増えることを期待しています。 |
| ●心の教育 | ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ●講話等を受けて、「ためになった」と答える生徒の割合「80%以上」を目指す。 ●特別措置数「0(ゼロ)」を目指す。 | ・交通安全、防犯、薬物乱用防止等の講話を実施する。形式は、講演方式もしくはオンライン方式で実施する。生徒の高い危機管理能力の向上を目指す。 ・礼法指導マニュアルを作成し、教員間で指導方法の共通理解を図り、年間を通して授業やHRを通して指導する。 | A | ・本年度は、両キャンパス共に、交通安全、防犯防止、薬物乱用防止講演会を実施し、生徒自身に今の現状や対処方法等を伝え、高い危機管理能力の向上を目指した。「ためになった」という生徒が90%以上を超え、学びの場の設定としては大変良かった。 ・今年度の特別指導は、農林キャンパスで1件、商業キャンパスで1件の合計2件の措置を行った。今年度の目標が特別指導措置「0(ゼロ)」だったため目標達成はできなかったが、学年主任や担任団の協力もあり少数に留まっている。 | A | ・問題行動が減少していることは喜ばしいことですが、SNS上での誹謗中傷やいじめ問題など傾向が大きく変わっており、新しい視点での指導が必要になってきていると感じます。 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ●いじめ問題に対して、未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に取り組む、組織的な対応ができていないと回答する教員が「80%以上」になるようにする。 ●いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上を図るため、アンケートを毎学期に「1回以上」実施する。 | ・気になる生徒に対して早めの動きかけを行い、カウンセラーへつなげていく。 ・スクールカウンセラーと連携して生徒の状況把握を確実にし、職員間で情報共有を確実にするため、学期に1回程度気になる生徒についての情報交換会を開く。 | A | ・前半期に引き続き、多様な背景による不登校傾向にある生徒や、保健室頻繁利用の生徒について、担任、保護者やスクールカウンセラーとの連携が密にできた。また、ケースによっては、伊万里市や県のSSWとも連携し、事態にあたることができた。 ・三者面談や教育相談期間の回数を増やし、生徒からのSOSを迅速にキャッチできる体制を整えた。 | A | ・特にいじめ問題への対応については、教育相談分野と連携して子どもの悩み解決に取り組まれることを望みます。 ・アンケート実施等、子どもたちが自分の置かれている状況や悩みなどを相談しやすい環境を作っていたことを望みます。 |
| | ◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動 | ◎講話を受けて「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒が「70%以上」になることを目指す。 ◎地域ボランティア活動を年間「2回以上」実施する。 ◎県内(地元を含む)就職率の向上と地域を支える人材の育成を目指す。 | ・1年生は、朝の読書の時間を使って一定期間「佐賀語り」を読ませ、まずは「佐賀」を理解させる。 ・授業等で、地域課題を分析し高校生のレベルで解決策を検討させたり、販売実習等をおこなうことで地域活性化に貢献する。 ・全学年10月27日(木)のLHRの中で、地域の清掃活動を行う。 ・生徒に対する職場説明会の促進や保護者に対する進路説明会等で地元企業の紹介を具体的にを行う。 | A | ・佐賀を誇りに思う事業の講演において、現在、東京で活躍されている伊万里市出身の映像クリエイターに講義を依頼した。3年生の課題研究「商業デザインコース」の中でも動画作成のご指導をいただきながら、伊万里の良さを多方面から伝えていただき、生徒にとっては効果的な地域理解となった。 ・商業OP3年生の課題研究「ビジネスプランコース」では、地域の課題を発見し、解決するためのビジネスプラン作成に取り組み、伊万里市の実情を知る貴重な機会となった。 ・農林OPでは、市内先進農家視察・森林農林事務所訪問や市内菓子店とのコラボレーションなどを通して、各学科とも産学・地域との連携が必要な行事を取り入れることで、佐賀の文化・伝統・技術等を学習することができた。 ・地域清掃ボランティア活動を実施した。日頃登下校している地域の清掃を行うことで、奉仕の精神が育まれるとともに、地域に対する思い入れがより一層深くなったと思われる。 ・「佐賀を誇りに思う」事業の推進できたことより、今年度も県内就職内定者が多くなった(約53%)。 ・ふるさとへの誇りや愛着に関するアンケートで、「佐賀県に誇りや愛着を感じますか？」の質問に、77%以上の生徒が「誇りを感じる」に回答しており、その意識の高さが見受けられた。 | A | ・郷土愛育成のためには、地域との連携が不可欠です。コロナ禍で思うように校外活動ができなかった時期が続きましたが、今後は積極的な活動が展開できることを期待しています。また、コロナ禍の中、オンラインによる研修や活動、交流等は行われてきているので、これらの機会も十分に活用していただきたいと思います。 |

| | | | | | | | |
|--------------------|--------------------------------|---|---|---|--|---|---|
| ●健康・体づくり | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ●「健康に食事は大切な要素である」と考える生徒の割合「80%以上」を目指す。 | ・食育便り毎学期発行とアンケートの実施。 ・お弁当の日の月一回の実施。 | A | ・お弁当の日は毎月実施できた。全て作ったことが一度でもある生徒は20%、なんらかの形で参加した生徒は70%に達した。「食育だより」も同じく毎月発行し、詳しく活動内容を伝えることができた。今後も継続し、家庭の協力を得て、生徒の食の自立につなげたい。 ・教科指導の中で食事や栄養の重要性についての学習を通し、望ましい食習慣の意識づけを行うことができた。 ・健康観察の項目に朝食摂取の有無を加え、調査を続けた。90%の生徒が摂取していることが分かった。継続して食習慣の確立につなげたい。 | A | ・子どもの健康増進のため、今後も食育活動をはじめとした諸活動への取り組みに期待します。 |
| | ●「安全に関する資質・能力の育成」(学校独自重点取組・任意) | ●学校管理下でのケガ等による生徒一人あたりの災害給付申請件数を「5%少なく」する。 | ・保健便りによる啓発活動。 | A | ・週に一度、自転車通学生の安全指導を行い、意識の向上を図ることができた。 ・災害給付金は商業キャンパスは15件、農林キャンパスは12件発生した。けがは軽微なものにとどまり、件数も少なくなった。災害発生率は昨年より5%下がっている。今後、冬季の体育や部活動で災害が発生しやすいので、教科と連携し抑制に努めたい。 | A | ・災害給付金の面からも学校管理下での災害が減っていることがわかります。今後も事故、けがの防止にいっそう取り組まれることを望みます。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・定時退勤日の設定(週1回)。 ・学校閉庁日の設定(4日間)。 ・部活動休養日の設定日の徹底と運用の遵守。 | A | ・時間外勤務時間数は前年比で減少した。(R4 商34.2hr 農38.2hr/R3 商36.3hr 農39.4hr)各年度4~12月。 ・年休取得は微増であった。年休取得日数(R4 11日 R3 10.8日)農商定合計平均 ・業務が在在等勤務時間の上限以上になってしまった職員もいたが、徐々に改善が図られた。 ・日頃からの健康観察と時間削減に向けた動員・奨励を行った。 | A | ・子どもたちへの教育を十分行っていくためには、まず、先生方の生活が健全であることが大事です。今後も働き方改革に取り組まれてください。 |
| | ○校舎制の学校における用務、業務の効率化を図る | ○校内組織や用務の一元化を目指し、用務や会議、委員会の統合を進める。両キャンパスで統合できる用務や委員会、オンラインで対応できる会議等を10以上創出する。 | ・学期に一度の合同運営委員会(3)。 ・体育祭、文化祭、クラスマッチ、芸術鑑賞、修学旅行、学校説明会(中学生向け)において、「統一した資料」の作成、「両キャンパスでの担当」の割り振りを推進していく。 ・少なくとも学期に一度の合同分掌会議、担任会の実施を推進する。 ・メールやオンライン会議による省力化と時間削減。 | A | ・学校行事については、各分掌での協力体制ができつつある。しかしながら運営委員会や職員会議の日程が各キャンパスごとで設定され、統一した議決に時間がかかっている。 ・分掌間については情報共有や意思の疎通が進んでいる。相互に訪問して打ち合わせもしているが、オンラインを有効に活用している。 ・学校行事におけるオンライン集会を行うことで、移動時間を短縮できた。管理職の情報共有はメールで行っている。 | A | ・オンラインの活用によって校舎制の学校にありがちな非効率な面を最小限にとどめる努力をされていることが理解できます。今後も校舎制のメリットを十分活かした学校づくりに邁進されることを期待します。 |

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|------------------------|--|---|--|---------|---|---------|--|
| | | | | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ○ICT利活用 | ○ICT機器を活用した家庭学習の支援 | ○臨時休校や学級閉鎖に伴うオンライン授業の実施し、授業で取り扱う課題などの配布を行う。○日々の「健康観察」などにあたり、アンケート機能などを有効に活用する。 | ・臨時休校や学級閉鎖に伴うオンライン授業を確実に実施し、欠席者の理解度が低下しないよう対応する。また、授業で取り扱う課題などの配布もデジタルで配信するなど、登校生徒との差が生じないように配慮する。 ・1年生は学習用端末の活用に向けた指導を徹底し、2・3年生を含め、学校および家庭での利用向上を目指す。 ・日々の「健康観察」などにあたり、アンケート機能などを有効に活用する。 | A | ・年末から年始にかけてオンライン授業や会議の機会が増加したが、職員および生徒の情報機器の使用スキルも向上し、授業確保はできている。 ・1年生に対して年度当初に情報に関する科目で学習用端末の活用に関する指導を徹底し、教師の授業内の活用を促したことで利用率は向上した。 ・健康観察や各種アンケートも学習用端末等の活用ができています。 | A | ・オンライン教育における生徒、先生方のスキルが向上し、利用頻度も上がってきていることは喜ばしいことです。今後もオンライン教育、情報教育の発展、充実に邁進されることを期待しています。 |
| ★魅力ある学科づくりと地域とのつながりの推進 | 【農林キャンパス】 ★農林業の実習や商品開発・販売実習の充実 ★地域と連携した活動や交流活動の推進 | ★専門教科への興味関心度が「80%以上」になるような教科指導を実践する。 ★農業文化祭(生産物販売会)を充実させ、販売活動等を通して、6次産業学習を推進する。 | ・SSLを活用した学校活性化を図る。 ・地域と連携した活動(新商品開発ほか)や交流活動等の推進を図る。 | A | ・SSLについては、各学科の協力により1年目の目標のところまで、高まりつつある。 ・地域と連携した活動は、本キャンパス全体で盛んに行っている。来年度も継続してやっていきたい。 ・森林環境科では、久しぶりに小学校に出前授業に行き、小学生との交流ができた。 ・フードプロジェクト部が県内企業と協力して、SDGsを意識した魚の骨を使ったクッキーの商品開発を行うことができた。また商品イベント等で販売し、PR活動と交流活動に取り組むことができた。 ・「農業用ドローンオペレーター技能認定教習所」の認定を受けたことで、資格取得しやすい環境を整えることができた。 | A | ・フードビジネス科、フードプロジェクトを中心に全国レベルで活躍されていることに頼もしさを感じます。コロナ禍が去り、今後もますます活躍されることを期待しています。 |
| | 【商業キャンパス】 ★商業の考え方を理解させるとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、社会で通用するスキルや知識を身に付けさせる。 | ★各種検定試験の合格率「80%以上」を目指す。また、教科指導の中で論理的かつ実践的な知識を身に付けさせる。 ★外部講師による講習・講演等を設定し、より実践的な知識技術を身に付けさせる。 | ・検定試験対策としては、長期休業の特課や直前対策特課を行い全生徒へ行き届いた指導を行う。 ・経営者や専門家の外部講師講演を行い、生徒の専門教育に対する興味関心を高めるとともに、スペシャリスト育成や起業家精神を育む教育を行っていく。 | A | ・長期休業中と検定前の特課を、集中的に行うことが出来た。コロナ感染症によるオンライン授業対応も継続して行うことが出来た。生徒の取得しようとする意識が高くなってきている。 ・外部講師講演会も、オンライン講演などを利用しながら行ってきた。様々な知識を得ることで、生徒の成長につながっている。課題研究など授業の中で、考察する機会を重視している。 | A | ・オンライン教育の効用として、全国各地の講師の方にわざわざ来校いただくことなく講演や講座を実施していただいていることが分かり、ありがたく思います。今後ますますの発展を期待しています。 |
| ○校舎制 | 【キャンパス共通】 ★農業教育、商業教育について校舎間の教職員で相互に学び合い、両キャンパスで行っている実習や商品開発・販売実習では協働で行う場面を増やすと共に、地域への広報活動にも務める。 | ★それぞれの学科の特性を活かした教育活動において、校舎間で協働で取り組むことができる活動をさらに5項目以上創出する。 ★地元紙、新聞、テレビ等への広報活動において、毎月1件以上取り上げてもらうよう努める。 | ・外部から案内されている種々の講習会や研修会等を積極的に活用する。職員、生徒に案内し、参加、出席を促す。 ・広報活動に必要なコンテンツの作成、刷新を行い、デジタル化に対応できる体制をつくる。 ・地域へのタイムリーな情報発信。 | B | ・コロナ禍の中、オンラインによる講演会や研修会には必要に応じて参加したが、効果については検証が必要である。 ・体育祭や文化祭等の教育活動については徐々に以前の内容に戻りつつあるが、職員の研修や生徒の校外活動については、まだまだ活発化したとは言えない。このため、新しい教育活動の創出には至っていない。 ・ホームページやプレスリリースによる学校の活動の広報活動を適宜行うことで、マスコミ等に取り上げられ、県内に広く伝えることができた。積極的な広報活動は、大いに充実してきている。 | B | ・それぞれのキャンパスで生徒にあった教育活動を展開されていることは理解しています。今後は両キャンパスが融合した伊万里実業高校ならではの教育活動が実践されて行くことを期待しています。 |
| | ○両キャンパス合同で実施する各種委員会の促進 ○学校行事や生徒会行事等の合同実施 | ○両キャンパス合同で行う会議を増やし、全職員レベルの情報共有と意思疎通を図る。 ○キャンパス別で実施してきた学校行事や生徒会行事の精選と効率化を図る。 | ・両OP運営・職員会議における共通の議案は、オンライン会議等で対応し、両OP職員間での共通認識と意思の疎通を図る。 ・生徒会行事におけるオンライン配信は現状のインフラ設備ではトラブルが多く運営上困難である。今年度は事前に準備した動画をYoutube配信することで、映像・音声配信のトラブルを無くしていく。 ・生徒が主体となって生徒会行事の運営を進めていく流れは継続し、すべての生徒が積極的に参加できる学校行事を醸成していく。 | A | ・年間を通して、両キャンパスで密に連絡を取り合いながら、生徒会行事の一本化を図り、企画・立案することができた。コロナ禍で実施不可能な行事等もありながらも、オンラインを効果的に活用するなど両キャンパスの生徒、職員が一体感をもって取り組むことができた。 ・ネットワークにおけるハード面がより充実することを期待する。 ・始業式、終業式における司会進行や生徒会長挨拶など、生徒の活躍の場を増やししながら、生徒が主体となる環境づくりを図っている。 | A | ・キャンパスが離れているからこそそのオンラインでの会議や交流、情報共有が進んでいることは学校活性化に大きく寄与していることと思います。今後もオンライン教育を十分に活用し、伊万里実業高校としての学校文化の醸成と教育の充実に取り組まれることを願っています。 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

| | | |
|----------------|-----------|---|
| 5 総合評価・次年度への展望 | 【総評】 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組14項目中、12項目で「A評価」を受け、おおむね目標を達成することができた。 ・「唯一無二の誇り高き学校づくり」の課題については、両キャンパスともに、具体的な取組に着手し始めたところである。継続した取組になるよう今後の計画を熟考する必要がある。 ・コロナ禍の中、学校祭や芸術鑑賞会等の行事を合同で行うことができた。一方で、校外活動にはその影響が残っており、オンライン実施も含めて、より効果的な教育活動を創出していく必要がある。 |
| | 【次年度への展望】 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのキャンパスの持つ特長を活かしつつ、伊万里実業高校としてのスクール・アイデンティティを確立する。 ・生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、新たな価値観に基づいた生徒指導や部活動指導の展開、いじめ対策や特別支援教育的見地から、個々の生徒への配慮の充実を図る。 ・変化の激しい社会に対応し得る人材、地域のニーズに応える人材の育成を図る。 ・DX、SDGsや6次産業化等を見据えたスマート・スクール構想の実践と、他校種や地域との協働による実践的活動の実現を目指す。 |